

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年8月28日(2008.8.28)

【公開番号】特開2005-162859(P2005-162859A)

【公開日】平成17年6月23日(2005.6.23)

【年通号数】公開・登録公報2005-024

【出願番号】特願2003-402810(P2003-402810)

【国際特許分類】

C 08 L 83/07 (2006.01)

C 08 L 83/05 (2006.01)

G 02 B 1/04 (2006.01)

【F I】

C 08 L 83/07

C 08 L 83/05

G 02 B 1/04

【手続補正書】

【提出日】平成20年7月15日(2008.7.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項3】

(B)成分が式： $(R^7R^8_2SiO)_gSiR^8_{(4-g)}$ (4)

(式中、 R^7 は炭素原子数2～10のアルケニル基であり、 R^8 はそれぞれ独立に非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、 R^8 の少なくとも10モル%はフェニル基であり、gは2または3である。)で示される、少なくともアルケニルとフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサンである請求項1または請求項2記載の付加反応硬化型オルガノポリシロキサン樹脂組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項6】

(B)成分が式： $(R^7R^8_2SiO)_gSiR^8_{(4-g)}$ (4)

(式中、 R^7 は炭素原子数2～10のアルケニル基であり、 R^8 はそれぞれ独立に非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、 R^8 の少なくとも10モル%はフェニル基であり、gは2または3である。)で示される、少なくともアルケニルとフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサンである請求項4または請求項5記載の光学部材。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明は、[1] (A) 平均組成式： $R^1_aR^2_bSiO_{(4-a-b)/2}$ (1)

(式中、R¹は炭素原子数2～10のアルケニル基、R²は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、R²の少なくとも50モル%はフェニル基であり、aは0.09～0.16であり、bは1.00～1.20である。)で示され、ゲル透過クロマトグラフィーでのポリスチレン換算重量平均分子量が3,000以上であり、少なくともアルケニル基とフェニル基を含有するオルガノポリシロキサン樹脂100重量部。

(B) 平均組成式 : R³_cR⁴_dSiO_{(4-c-d)/2} (2)

(式中、R³は炭素原子数2～10のアルケニル基、R⁴は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、R⁴の少なくとも10モル%はフェニル基であり、cは0.60～0.80、dは1.50～2.10である。)で示され、少なくともアルケニル基とフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサン10～50重量部。

(C) 平均組成式 : H_eR⁵_fSiO_{(4-e-f)/2} (3)

(式中、R⁵は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、R⁵の少なくとも20モル%はフェニル基であり、eは0.35～0.65、fは0.90～1.70である。)で示されるオルガノハイドロジエンオリゴシロキサンもしくはオルガノハイドロジエンポリシロキサン20～100重量部、および

(D) 触媒量の付加反応硬化触媒からなり、硬化物のASTM D2240-86に規定されるタイプDデユロメータによる硬さが25で60～100であり、150で40～100である付加反応硬化型オルガノポリシロキサン樹脂組成物。

[2] 平均組成式(1)中のaが0.10～0.15であり、bが1.00～1.15であり、平均組成式(2)中のcが0.60～0.80であり、dが1.50～2.00であり、平均組成式(3)中のeが0.35～0.65であり、fが1.30～1.70である [1]記載の付加反応硬化型オルガノポリシロキサン樹脂組成物。

[3] (B) 成分が式 : (R⁷R⁸₂SiO)_gSiR⁸_(4-g) (4)

(式中、R⁷は炭素原子数2～10のアルケニル基であり、R⁸はそれぞれ独立に非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、R⁸の少なくとも10モル%はフェニル基であり、gは2または3である。)で示される、少なくともアルケニルとフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサンである[1]または[2]記載の付加反応硬化型オルガノポリシロキサン樹脂組成物。

[4] (A) 平均組成式 : R¹_aR²_bSiO_{(4-a-b)/2} (1)

(式中、R¹は炭素原子数2～10のアルケニル基、R²は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、R²の少なくとも50モル%はフェニル基であり、aは0.09～0.16であり、bは1.00～1.20である。)で示され、ゲル透過クロマトグラフィーでのポリスチレン換算重量平均分子量が3,000以上であり、少なくともアルケニル基とフェニル基を含有するオルガノポリシロキサン樹脂100重量部。

(B) 平均組成式 : R³_cR⁴_dSiO_{(4-c-d)/2} (2)

(式中、R³は炭素原子数2～10のアルケニル基、R⁴は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、R⁴の少なくとも10モル%はフェニル基であり、cは0.60～0.80、dは1.50～2.10である。)で示され、少なくともアルケニル基とフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサン10～50重量部。

(C) 平均組成式 : H_eR⁵_fSiO_{(4-e-f)/2} (3)

(式中、R⁵は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、R⁵の少なくとも20モル%はフェニル基であり、eは0.35～0.65、fは0.90～1.70である。)で示されるオルガノハイドロジエンオリゴシロキサンもしくはオルガノハイドロジエンポリシロキサン20～100重量部の付加反応硬化物であり、硬化物のASTM D2240-86に規定されるタイプDデユロメータによる硬さが25で60～100であり、150で40～100である光学部材。

[5] 平均組成式(1)中のaが0.10～0.15であり、bが1.00～1.15であり、平均組成式(2)中のcが0.60～0.80であり、dが1.50～2.00であり、平均組成式(3)中のeが0.35～0.65であり、fが1.30～1.70である[4]記載の光学部材。

[6] (B) 成分が式 : (R⁷R⁸₂SiO)_gSiR⁸_(4-g) (4)

(式中、R⁷は炭素原子数2～10のアルケニル基であり、R⁸はそれぞれ独立に非置換もしくは置換一価炭化水素基（ただしアルケニル基を除く）であり、R⁸の少なくとも10モル%はフェニル基であり、gは2または3である。)で示される、少なくともアルケニルとフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサンである[4]または[5]記載の光学部材に関する。